

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2025年1月20日

実行委員長 救助救命本部副本部長 所感

菊地 太 救助救命本部副本部長、第9回JLAシミュレーション審査会実行委員長

まずは第9回目の審査会に参加して下さった多くの皆様に感謝いたします。

今年度は、全国5カ所で開催し、それぞれの地域で大きな成果を上げることができました。それには、多くの企業様からのご支援があるからこそ継続できていると深く感謝しております。このご支援は、我々ライフセーバーのためでなく、多くの水辺利用者にとって安心安全な環境作り審査会を通して役立たせて頂いています。

また、審査会当日に向け各地域の各行政様と十分なお打ち合わせができたのは、ひとえに、各地域で多くの時間を費やして、動いてくださったホストクラブの方々がおられたからと感謝しています。

地域ライフセービングクラブが長い時間をかけて積み上げてきた地域行政様との信頼関係が十分構築されている地域や、今回の審査会を通して地域ライフセービングクラブと関係行政様と顔の見える関係となった地域もありました。

いずれにせよ、水辺利用者にとっては、安心安全に繋がる良き効果であったと確信しています。

一方、係員やエキストラに関して、年々協力して下さるメンバーが増えていることや、係員各セクション、エキストラの演技指導などとても大切なポジションの後輩への伝達作業なども垣間見え、次世代へ引継ぎも同時進行で進め、今後の展望に明るさを感じています。

審査会の趣旨や目的は、本報告書の3ページ目に記載ありますが、傷病者のいる現場からの情報が監視長に明瞭簡潔に伝達され、適切な観察・優先順位の選択が、早期119番通報や、早期CPR開始などの時間短縮に大きく影響したのではないのでしょうか。

この事は、有事対応時だけでなく、監視業務を含むすべての行動時にも必要不可欠な能力です。

今後とも皆さんと共に、高い誇りを持って活動できるよう、邁進していきますので、どうかお力添えの程宜しくお願い致します。

最後になりますが、地域クラブから選抜された審査員の【検討推奨事項】は、各浜で長い歴史ある監視業務を先人から受け継ぎ、今日まで多くの経験に基づいて構築された貴重な物とらえています。

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項に示した『エキストラ所感』『審査員所感』は審査員などから取りまとめた【検討推奨事項】となりますので、『メディカルダイレクター所感』と同様、熟読して頂き、今後のパトロールに活かして頂くことが、審査会の根幹であり、運営側から切望するところであります。

今後も、皆さんと一緒に審査会の運営自体も検討し、大きな効果を得られるようご協力のほど宜しくお願い致します。

エキストラから気づいた実施者の動き 所感

《検討事項》

【傷病者 A】

- ・ 傷病者への呼びかけが「お兄さん、大丈夫？」「お姉さん、大丈夫？」。講習会ではそうは伝えておらず、このジェンダーレスなご時世でそう呼ぶのは適切かどうか…。少しなら良いと思うが連呼しすぎるのはいかがなものかと。名前が分かった段階で、その人の名前を呼べば良いと思う。
- ・ 止血が先なチームとクラゲの処置が先なチームが半々であった。温度調節が適当。

【傷病者 B】

- ・ 異物除去の時に頭だけを回転させて行なっているところがあり痛かった。
- ・ 全体的に、生体の取り扱いに不慣れな印象を受けました。体位変換や吐物除去、気道確保、頸動脈触知などの手技において、過度または不十分、不適切な対応となっていた場面が多くあったと感じます。改善には効率的な訓練の積み重ねが第一と考えますが、実際に手技が適切にできているクラブもあったという事は、推奨されるべき指導方法や訓練手法があると考えられます。クラブ間でそのような推奨事項を共有する機会を作れればと感じました。

【友人役】

- ・ 救急隊をいかに早く呼ぶか、事前にチームで十分な打ち合わせが必要だと思いました。倒れた方の友人として、一刻も早く救急隊に来てほしいと思いました。チームによっては救急隊を呼ぶのが遅れたところもあり、反省すべきだと思いました。

《推奨事項》

【傷病者 A】

- ・ 異物除去に関しては昨年よりも改善が見られた。胸骨圧迫や人工呼吸など、CPRに入るタイミングがもう少し早くなると良いと思う。
- ・ 傷病者の様子をしっかりと伺っていた。どちらの処置もスムーズにできていた。5チームほど海を見ながら処置ができるように傷病者の背中を海に向けるのがいい判断だと思った。

【傷病者 B】

- ・ 異物除去以外のところは毛布をかけたりしていた浜もあり、傷病者に対して丁寧に扱っていた。

【友人役】

- ・ 実際に本当の現場に立ち会ったかのような、訓練であり、私も大変勉強になりました。ありがとうございました。

メディカルダイレクターからの検討推奨事項

鍛冶 有登 JLA メディカルダイレクター 岸和田徳洲会病院 救命救急センター長

【静岡県相良サンビーチ】

- ・ 現場に来た救急隊長に、正しく早く引き継ぐためには、関係者の有無・CPR 開始時間・ショックの有無など、すぐに言える必要があります。できているチームもありましたが、できていなかったチームの際は、救急隊長が困っていました。
- ・ 現場に来た救急隊長に、正しく早く引き継ぐためには、関係者の有無・CPR 開始時間・ショックの有無など、すぐに言える必要があります。今回、大幅に遅れていました。
- ・ CPA の確認に、声なしでした。実際の場面でも、周りにいる人にも CPR が必要な状況であることを知らせる意味でも、声を出す必要があります。また異物の除去も、徹底的にしましょう。

北村 伸哉 JLA メディカルダイレクター 君津中央病院 医務局長・救命救急センター長

【鋸南町保田中央海岸】 2024年10月27日 晴れ後雨 参加チーム 6

CPR 初動と搬送

依然として胸骨圧迫までの時間が長い傾向にあります。以前に比べ、すぐに応援を呼ぶようになりましたが、意識がないことを確認してから直ちに監視長への報告すなわち 119 番要請をしないため、救急システムの立ち上げが遅くなっています。さらに安全区域への移動に時間をかけているために、正常な呼吸がないことの確認が遅れ、結果、CPR の開始が遅れました。

胸骨圧迫

テンポがだんだん早くなるチームもありましたが、概ね許容範囲であり、圧迫位置、深さ、リコイル、絶え間ない胸骨圧迫はしっかりと行っていました。

呼吸吹き込み法

安全な場所に移動するまで、異物の除去をしなかったチームがありました。以前に比べ、しつこく口腔内の吐物を掻き出すチームは減りましたが、流動物のため、横に向ければ、流れ出すことは伝えました。

2 チームでリサシテーションマスクの用意がなく、胸骨圧迫を絶え間なく続けていました。

心原性ならば、有効なこともありますので、否定はしませんでした。講評でリサシテーションマスクの有用性は伝えました。

ほとんどのチームは胸の上がりを確認しながら、吹き込み、問題ありませんでしたが、呼吸吹き込みが速い選手もいました。

AED

パットを誤った位置に装着したり、操作を誤ったチームはありませんでした。ショック後の胸骨圧迫も速やかに行われました。

メディカルダイレクター賞を受賞したチームは初動、CPR 開始が比較的早く、傷病者に丁寧に接したこと、指示・状況報告が明瞭であったこと、救急隊に引き継ぎ、傷病者が移動する際に手伝ってくれた周囲の人々に礼を述べたことが受賞につながりました。

これらは、直接、蘇生技術としての評価点にはなりません。総合評価として加点されました。

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2025年1月20日

講評

まずはBLSの訓練同様、意識がないことを確認したら、AEDと119番要請をまず行うこと。波打ち際といっても、波が押し寄せる危険性もないため、高い場所まで移動する必要はなく、直ちに正常な呼吸がないことを確認し、CPRを開始することを強調しました。

レサシテーションマスクは今後必須になるため、常備するよう指導しました。

今回、バックボードを使用したチームはありませんでしたが、茨城県のチームは傷病者を安全区域に移動後にバックボードに載せていました。現場から病院まではクラブのバックボードを使用して、あとで回収しているのかもしれませんが、千葉県ではそのような習慣がないので、バックボード自体も傷病者のところへ持参していませんでした。

シミュレーションの中では救急隊には実際の活動のようにバックボード固定まで行っていただき、正しいバックボードへの固定のデモンストレーションとしました。

今後の課題はやはり初動。いかに早くCPRを開始するかということになると思います。それには安全区域への移動について指針を見直す必要がありそうです。

【鹿児島県重富海水浴場】2024年11月17日 晴れのち雨

CPR 初動と搬送

鋸南町と同様、胸骨圧迫までに時間を費やしています。CPRを開始する場所はそれほど遠くない場所、あるいは発見場所で行われていましたが、PPEを着用するチームが半数あり、それに時間が食われていました。また、感染防御衣は着用しているのに、マスクはしていないチームもありました。それでも鋸南町より、救急の起動は早くなっていると思いました。

胸骨圧迫

問題は心停止の判断です。胸骨圧迫の開始は呼吸停止もしくは異常な呼吸ですが、腹臥位で呼吸の確認をしようとして難渋しているチームがありました。仰向けにすべきです。結果、胸骨圧迫までの時間が遅れました。

また、脈拍の確認をしているチームもありました。医療従事者(医師・看護師・救急隊員)は行っていますが、ライフセーバーがどこで心停止の判断・胸骨圧迫の開始の判断をすべきか整理すべきでしょう。救急の起動が早く、心停止の判断が基本的に忠実なチームは胸骨圧迫の開始も早い傾向にあります。つまり、BLSの実習の通りやっているからだと思います。

呼吸吹き込み法

CPRの開始を呼吸吹き込みから始めているチームがありましたが、溺水でないので胸骨圧迫からすべきであることを指導しました。一方、レサシテーションマスクを準備する間、別のチーム員が胸骨圧迫を優先しているチームがありました。このように臨機応変に活動することは良いと思います。

救急隊から呼吸吹き込みから胸骨圧迫までの時間が遅いと指摘を受けましたが、自分が見たところは許容範囲でした。

感染防御のためにマスクをしていましたが、呼吸吹き込み時もマスクをしたまま吹き込みを行っているチームがありました。HEPAフィルター付きのレサシテーションマスクならば、感染の危険はほとんどありませんが、気持ちはわからなくもないです。

ほとんどのチームが胸の上がりをみながら、適切に吹き込みをしていましたが、かなり速く吹き込んでいる選手に対して、バディーが修正していました。

AED

問題なく行われていました。

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2025年1月20日

メディカルダイレクター賞を授与したチームがどこだったかも、失念してしまいましたが、初動、救急の起動が早く、心停止の判断は基本に忠実。胸骨圧迫の開始も早く行われていたような気がします。リーダーだったのか、蘇生に注意を払っている選手が、手技に対して、確認してアドバイスしており、チーム力が高いところを評価したような…

講評

もう、何を話したか忘れてしまったので、感想になります。

鋸南町と同様にBLSの訓練同様、意識がないことを確認したら、AEDと119番要請をまず行うことが必要であることを強調した方が良いですね。ここはハードルが高いところですが、重要です。巡回している余ったライフセーバーが、海の監視をしていましたが、初動は監視チーム全員で動いた方が良さそうな気がします。海の監視を緩めるわけには行きませんが、初動の危ないフェーズだけは全勢力を投入してもよさそうです。

防御衣を着用する時間があれば、胸骨圧迫開始に充てた方が良いですね。現在はマスクとゴーグルだけで十分であると思います。

蘇生チームはリーダーが蘇生の質を担保すべきであり、バディーが蘇生法をひとつひとつ修正しているチームはチーム力があると思います。

指令が明確であるチームがあり、リーダーはそうあるべきです。「〇〇時、胸骨圧迫開始」のように、なにかする事に時間を読み上げている選手もいました。これはICLSコースでは普通に行われていますが、おそらく、BLSの実習でも行っているのでしょう。

実習で習う型どおりのBLSが現場でも役立っていました。

最後に引き上げる時に手伝っていただいた衆人にお礼を言ったチームは1チームだけだったと思います。ライフセーバーとして礼儀を尽くすべきです。

吉澤 大 JLAメディカルダイレクター 東海大学医学部総合診療学系救命救急医学領域教授(特任)
厚生労働省健康・生活衛生局参与

【兵庫県須磨海水浴場】実施日 2024年11月21日

【全体】

- ・心停止の判断をしていない(←想定にCPAと記載されているからかもしれません)
- ・水辺での意識障害は頸椎(髄)損傷も十分視野に入れるべきです。頸椎保護を念頭にいた傷病者の体位変換を意識してください。
- ・意識障害の要救助者を覚知したらまずは、要救助者へ接触して意識、呼吸、脈拍の確認をすることが最優先です。原則を再度確認してみましょう。

① 神戸ライフセービングクラブ A

[良かった点]

- ・適切な胸骨圧迫でした。
- ・救急隊がAEDのパッドを交換する際にも胸骨圧迫の中断が少なくできていました。

[課題点]

- ・バックバルブマスク(BVM)を使用するのであれば、正確に。吹き込みは2回です。また1回あたりのインターバルは十分に傷病者の呼吸を確保する必要があります。

[審査員からの質問]

- ・BVM使用に関する取り決めは使用前に確認できていますか。
- ・バックボードに傷病者を載せる理由は何かありました。時間がかかる場合には先にCPR開始を検討しましょう。また使用するのであれば頸椎保護を意識した方法で移乗をしましょう。

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2025年1月20日

② 神戸ライフセービングクラブ B

[良かった点]

- ・胸骨圧迫は確実でした。
- ・胸骨圧迫実施者の交代のタイミングは胸骨圧迫中断を最小限にできていた。

[課題点]

- ・BVMの吹き込みは正しく行いましょう。
- ・AEDのパッドの交換を消防が行う場合には、距骨圧迫の中断は最小限にするように張り替え前に戦略を立てて実施しましょう。

[審査員からの質問]

- ・N95マスク着用者とサージカルマスク着用者が混在していましたが、何かしらの理由があるのでしょうか。

③ 大阪体育大学ライフセービングクラブ

[良かった点]

- ・CPR時の胸骨圧迫の角度、深さ、リコイルは非常に良かったです。
- ・救急隊バックボードへの移乗時にもCPRを継続できていた

[課題点]

- ・胸骨圧迫の早さは100回程度/分ですが、やや遅めに感じました。一度100のテンポを確認してみてください。
- ・呼気吹き込みを再度レサシアン等で訓練してください。十分な吹き込みはできていませんでした。胸の拳がりをしっかり見ましょう

[審査員からの質問]

- ・液左側に顔面を向けている傷病者に対して、右に顔を動かした理由は何かあるのでしょうか。迅速なCPRの開始を考えると左の向きでもよかったかもしれません。また、頸椎損傷による意識障害も視野に入れて救助活動をしてみてください。
- ・口腔内を目視して異物が無ければ口腔内掻き出しは必須というわけではありません。また液体成分を出た場合には、まず嘔吐物の再嚥下による肺への誤嚥による窒息等の合併症を防止する目的で口角を下側に向かせる必要があります。各処置には目的と理由があります。再度確認を。

④ 淡輪ライフセービングクラブ

[良かった点]

- ・CPR手技はよくできていました。
- ・AED使用時も胸骨圧迫中断を最小にすることを意識して活動していました。

[課題点]

- ・マスクによる吹き込みは不十分です。再度レサシアン等で練習をしてください。
- ・ショックの回数等本部に伝えるタイミングは適切でしたか。まずはCPRできる環境確保を目指しましょう。

[審査員からの質問]

- ・左側に顔面を向けている傷病者に対して、右に顔を動かした理由は何かあるのでしょうか。迅速なCPRの開始を考えると左の向きでもよかったかもしれません。また、頸椎損傷による意識障害も視野に入れて救助活動をしてみてください。

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2025年1月20日

朽方 規喜 JLA メディカルダイレクター 日産自動車グローバル本社 産業医

【神奈川県海の公園】 2024年11月3日

日差しはありましたが、肌寒い、ときおり強風のある一日でした。

計7チーム、葉山、波崎、常陸、西浜、逗子、大竹、横浜海の公園から参加があり、その評価をしました。

すべてのチームがこの活動に真剣に取り組んでおり、練習に多くの時間を費やしたと感じました。

まず全体的に、良かった点を述べます。

かねてより課題とされていた、レサシテーションマスク(ポケットマスク)を使用しての人工呼吸ですが、昨年に比べてマネキンの胸郭挙上がよく判り、改善が著しいです。

其々、メンバーの役割分担が明確で、かつ連携もしっかりするようになりました。リーダーによるリーダシップ、メンバーによるサポートがよく、良好なチームダイナミクスです。

またシミュレーション審査会として重要な目的である救急隊への引継ぎですが、これもよかった点のひとつです。メンバーひとりひとりが救命という目標に向かって、お互い協力し、救急隊員とのコミュニケーションも積極的でした。

やるべきことが、皆さんの中で、理解され、定着しています。年々、どのチームもレベルが向上しています。

一方で、改善すべき点を述べます。

まず、外傷手当や CPR を実施する際は、自身の身を守るため、目の保護、サージカルマスク、グローブ装着を徹底して欲しいと思います。今年度からガウンは不要としていますが、この3点は最低限のプレコーションです。残念ながら一部のチームで徹底されていませんでした。もちろんプレコーションに時間がかかり、胸骨圧迫のタイミングに遅れをとるようでは、本末転倒になってしまいますから、日頃から、装着は習熟して頂きたいです。

また今回のシナリオでも、傷病者が急に嘔吐するわけですが、この場合、直ちに(瞬時に)傷病者を横に向かせなければなりません。一瞬でも吐しゃ物が気道に入り込まないようにすべきです。ワンテンポ遅れていませんか？ 救急車内で活動する救急隊員や病院のベッドサイドで働く看護師であれば、反射神経のごとく、そのような行動をとることと思います。

いくらそのあとの人工呼吸を頑張ったとしても、異物を窒息し、十分に肺に送気できなければ、換気不良になります。また誤嚥による肺炎で、良い結果が得られません。

吐しゃ物除去のためのマウスクリアも、入念に、何回も何回も行うが故、胸骨圧迫開始が遅れませんでしたか？

これらのことを、言葉だけで、伝えるのは難しいのですが、まずはひとつひとつの手技に、自信がもてるようになるまで繰り返し練習すること。そして全体的な流れをつかんだ後は、少しずつスピードアップに挑戦してみてもいかがでしょうか。

救命は時間との勝負です。

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2025年1月20日

推奨事項(対応が優れており、推奨する手技)	
審査長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場と監視長とのトランシーバーやりとりが明解でスムーズ. ・ 救急隊を誘導したことで、現場到着が早い. ・ 熱中症対策用のテントはいいアイデア. ・ 落ち着いて対応できている. ・ LS2 人のコミュニケーションが良い. ・ 頭部保護が適切. ・ 本部と現場のコミュニケーションが良い. ・ ショック不要からの再開が迅速. ・ 現場でのコミュニケーションが高い. ・ 人工呼吸が適切にできている. ・ 救急隊との連携が良い. ・ CPR が適切. ・ 傷病者の頭部の扱いが丁寧, 現場と監視長の連絡がよくできている. ・ 感染対策が適切.
監視長・監視員	<ul style="list-style-type: none"> ・ カメラで撮影している野次馬に注意できていた ・ 全体に向けて情報共有されていた ・ 他の隊員への声かけができていた ・ 時間管理できていた ・ 細かい指示が出されていた ・ レシーバーのチャンネルを変波させていた ・ 細かい指示が出されていた ・ 他の傷病者への声かけがされていた ・ 救急隊への引き継ぎがスムーズにできていた ・ トラメガの使用が良好であった ・ 熱中症対策が出来ていた ・ マリンブーツ装着していた ・ 一般人にチューブ持たせて誘導していた ・ 時間、状態の共有が丁寧に継続的に行っていた ・ 名前を呼んで落ち着いて指示できていた ・ 時間状態の共有ができていた ・ 現場へのスピード感、本部にいても情報の解像度が高い ・ レスキューレスキューレスキュー分かりやすい ・ 119 場所の共有が正確 ・ 通報が早い、原因時刻が正確 ・ リーダーシップと活気だし連携が良かった ・ 冷静に対応できていた。 ・ 緊急用にシーバーのチャンネルを変えていてよかった ・ 傷病者をタオルで見えなくさせるなど、周囲への配慮がよかった ・ 自分がどこを見ているかを声に出しているのは良いと思った ・ 監視長の仕切りがよかった ・ 救急車への搬送を念頭に CPR バックボードを最初から用意されていた。 ・ 日除けと風避けの意味からも、バスタオルで溺者を保護していた。 ・ 溺者の周りに対して入ってこないようにある一定の円を描く、また、友人達に手を繋がせ ・ 全体的に落ち着いて対応ができていた。 ・ 的確な指示でのシーバーのやり取りがよかった。

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2025年1月20日

- ・ 落ち着いていた 回りへの配慮がちょうどよい
- ・ お互いの声掛けがしっかりしていた
- ・ 通常監視の有無を話し合っていた
- ・ 搬送後の通常監視への以降が、スムーズ ガウンが、数枚一緒にバックに入っていたようだったが、使いまわし？
- ・ 声が非常に出ていた
- ・ 落ち着いていた。AEDの取り扱いが丁寧
- ・ 救急隊の優道路に気を回していた
- ・ 必要な声かけが実施されていた。
- ・ CPR現場における現場長から本部への情報共有がよくできていた。
- ・ 現場におけるライフセーバー同士のコミュニケーションが良い。
- ・ メロノームやブルーシートの設置など、現場を作るという点において良い。また、現場長兼聞き取りによる情報共有が的確。
- ・ 感染症対策がよくできていた。コロナの罹患可否によりポケマの使用判断を下そうとする点など。
- ・ チーム全体として落ち着きがあり、必要な情報がしっかりと共有されている。また、周囲の野次馬への対応が極めて丁寧で評価できる。
- ・ テントの使用やチーム全体の団結感など、他のチームとは違った良い雰囲気と覇気があった。
- ・ 適切なCPRができていた。落ち着いていた雰囲気があった。
- ・ 知人をしっかり確保していたため、救急隊への引き継ぎがスムーズ。声が大きく覇気があった。やっていることもわかり合っていたため処置がスムーズ、傷病者への声掛けも良い。
- ・ 1stが意識、呼吸確認、CPRと適切で丁寧、落ち着いた対応ができていた、その分2ndたちの遅さが際立った。
- ・ 監視長の指示のもと各メンバーの役割が明確になっており、連携が良かった。バックボードに早期に載せたことで救急隊の搬送がスムーズ。声大きい。
- ・ ファーストのアプローチ、意識、呼吸の確認、声掛けは非常に良かったが、周りとのギャップがあったため、周りとの連携が見られるとより良い。知人から情報を取りながら、溺水という点を救急隊に伝えられていた。
- ・ 声がよく出ており、連携が良く、適切なCPR、AEDの対応に貢献していた。野次馬の整理にしっかりと力を入れていたため、CPR対応メンバーがより動いていた。
- ・ 監視長を筆頭に全体の統括、指示系統はしっかりしていた。CPRも問題なし。
- ・ 救急隊への通報が迅速かつ丁寧。
- ・ FAの止血はもう少し大きな布などを使い、血が溢れ出すのを防ぐべき。CPRでは時間経過につれ圧点のズレや速さの不安定さが少し目立つ。
- ・ 監視長と監視員の連携が良い。救急隊への連絡、CPR開始までのスピードが迅速かつ丁寧
- ・ 監視長が現場の状況、海浜のマネジメントをしっかりできている。消防への引き継ぎや、迅速な救命の意識が強いことがわかる。
- ・ 現場のメンバーと本部の連携がしっかり取れている。またCPR現場も人、機材共にきちんと整理されており、安全、確実、迅速に救助できる体制が取れている。
- ・ 現場が整えられており、どこで誰が何をしているのかが一目見ればわかる。
- ・ CPRの現場での連携が◎。シーバーも聴きやすく、現場で拡声器を使う工夫もよかった。
- ・ 吐物処理が早かった。現場でのコミュニケーションが良く取れていた。
- ・ CPR開始までの時間が早かった。
- ・ 役割分担がされていて周囲への対応が出来ていた。
- ・ テントを支える人を関係者に任せていたので、必要的にゾーニングが出来ていた。
- ・ FA対応の際に傷病者に愛護的に接していた。
- ・ 監視長が現場に細かな指示を出せており、情報共有や集約が監視長の発信で行われていた。FA対応の際に傷病者が楽な姿勢を取れるよう留意していた。

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2025年1月20日

- ・ FA 対応の際に傷病者の話をしっかりと聞けていた。
- ・ 救急要請や CPR 開始までが早かった。
- ・ 毛布での目隠しを関係者にやってもらっていた
- ・ 傷病者へ丁寧に対応できていた。
- ・ 監視長の指示のもと活動できていた。
- ・ 発見や対応の初動が早くて良かった。
- ・ 全体共有が多く、情報量が潤っていた。
- ・ 圧迫に入るまでが早くて良かった。
- ・ 運搬を見込んで先にバックボードに(しかも短時間で)乗せられていた。現場の女性がしっかり指揮をとっていた。
- ・ 観衆への配慮が見られた。メロノームの使用の効果があつた。
- ・ ファースト、セカンドのコミュニケーションが良く、落ち着いて連携が取れていた。
- ・ 無駄がなく、自然環境下での対応にも優れていた。
- ・ 冷静な対応でした。
- ・ 監視長の指揮統率力が素晴らしく、チームワークが良かった。
- ・ 観衆にロープ持たせ、一定の距離を取りコントロールする工夫○
- ・ エリア規制のアナウンスで観衆をコントロール。効果があつたように見えた○
- ・ 全体的に活動の統制が取れていたと思います。
- ・ FA○
- ・ 継続監視○
- ・ 情報収集○
- ・ 誘導○
- ・ 一生懸命に直向きに取り組む姿勢。
- ・ チームとしてのまとまった動き。スムーズな進行。
- ・ 電気ショック時の時刻の確認とメンバー共有。正しいテンポでの胸骨圧迫。
- ・ 聴衆からの丁寧な聞き取りと記録。落ち着いた対応。
- ・ 監視員に対して必要な情報を聞いていた
- ・ 監視員の配置が的確でした
- ・ 監視員を素早く現場に送っていた
- ・ FA の対応を終わらせたことによって人員が確保されていた
- ・ 通報者を監視人数の保護のために使用したり傷病者の荷物を取りに行かせていた
- ・ 情報の聴取のために無線を何度か入れていた
- ・ 現場と監視長のやりとりが的確だった
- ・ 継続監視しながらも FA の人を安心させていた
- ・ 指揮が的確で情報がわかりやすかった
- ・ 救急隊を通報者に誘導させて情報のメモも渡していた
- ・ チーフからの情報要求は充分だった。
- ・ 5 人の中で人員の無駄は省いていた。
- ・ 通報をメンバーに任せた事で情報収集に専念出来ている。そのアドバンテージを活かせなかった。
- ・ 海の家の人や知人などの使い方は良かった。
- ・ 通報判断が早かった。
- ・ 常に声が出ている。シーバーワークも良
- ・ 現場に人員を優先する姿勢は良かった。
- ・ 声がよく通っていた。情報を再通報するのも良かった。
- ・ 119 通報をメンバーに任せていた事で、聞き取りと並行して行う事が出来ていた。
- ・ 搬送時間など細かな情報も共有できていた。欲しい情報を自分から聞いていた。
- ・ FA 傷病者を座らせる向きを工夫して FA 対応と監視が見えるようにしている。

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2025年1月20日

- ・ FA 対応も気を遣えて落ち着いて視野を広げられていた。
- ・ 海を見ていない時間が無い。
- ・ 自分がなにをするか。メンバーに何をしたいか等を細かく的確に話せていた。
- ・ 感染防御がともしっかりしていた。わからない所はしっかりわからないと言ってから確認を取っていて救急隊に正確な情報を伝える意識があった。個人を指名して指示できていてスムーズだった。
- ・ 全員何をすべきかわかっていて、指示も細かくわかりやすかった。CP が直接コントロールできる位置で活動していて潤滑に進んでいた。
- ・ 笛が鳴ったらどう動くかというのを全員わかっていてスムーズに対応に入っていた。CP が FA 対応に入った際、帰れるか等今後の配慮もできていた。
- ・ CPR の情報をとりながら FA 対応の方の情報も取れていて CP として全体を仕切る意識があった。
- ・ 倒れているのを知らせてくれた人に対してわかりやすく落ち着かせる口調で、救急隊に対しての対応も的確で丁寧だった。ライフセーバー以外の人の使い方がとても良かった。
- ・ FA 傷病者に温度確認していた。再対応よし。
- ・ 一問一答のやり取りは明確でよい。知り合いの確保のフォローがよかった。
- ・ 救急車要請。情報少なくとも連絡したのはよい。
- ・ 双眼鏡の使用よい。救急車要請早い。仲間への励ましよい。
- ・ FA 傷病者への声かけはよい。
- ・ 冷静に対処できていた。
- ・ 関係者にも傷病者の運搬の補助を依頼していた。
- ・ 観衆への対策に人を割いており、近寄せないようにしていた。
- ・ 救急隊が来た際にすぐに関係者を伝える体制になっていた。
- ・ 救急隊が来るための動線確保が徹底されていた。ほかの活動も悪い点が見受けられなかった。
- ・ 落ち着いて対応ができていた。
- ・ 声が大きく、わかりやすい情報伝達で組織的に動いていた。観衆が近づかないようブルーシートを持つ役をやらせていた。動線確保の徹底ができていた。搬送が終わった後の監視活動の指示ができていた。
- ・ 状況の確認のため、大きな声で共有事項を発声していた。
- ・ 観衆が近づかないための措置や、救急隊が通る密であることの説明ができており、スムーズに救急隊へ受け渡しできていた
- ・ 傷病者から離れるよう徹底
- ・ ライフセーバー間で指示を出していた
- ・ 救急車までの搬送で周りの人に協力してもらっていた
- ・ 足から搬送していて、階段のところでは頭から搬送していた
- ・ FA の傷病者を処置が終わったらすぐに帰っていた
- ・ 下顎挙上法で軌道確保を行っていた
- ・ 各自やるべき事をやっていた
- ・ ライフセーバー間の指示や声かけがよくできていた
- ・ ライフセーバー間での声かけがあった
- ・ ガヤを遠ざけるための円が大きく、救急隊が入ってくる道もかいていた
- ・ チーフが必要な情報を現場から聞き出せていた
- ・ 直接圧迫をすぐやり、聴取しながらできていた。
- ・ 周囲の人にも手伝ってもらって救急車まで搬送していたのが良かった。アルコールの有無なども聞けていて良かった。
- ・ タワー本部との連携が取れていた。
- ・ 最初にビーパトしている方が声をかけタワーに FA の準備を先にしてもらっていたのが良かった。

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2025年1月20日

- ・ 救急隊来るから場所をあけてと最初から搬送経路を確保していた。
- ・ AEDを行うから触れると危ないということを説明ししっかりと周りを近づけないようにできていた。
- ・ しっかりと脈の確認もとっていた。現場離脱の際に物を残さず全部持っていた。
- ・ 常に声が飛び交っていて良かった。意識の確認で触ってわかるかも確認していた。
- ・ 周囲の人を外向かせ囲むようにできていたのが良かった。
- ・ 声をかけながら CPR をしていた。
- ・ 大まかな流れに問題はなかった
- ・ 救急車を呼ぶのが早かった
- ・ 送気がしっかりとできていた
- ・ 搬送時に救急隊に協力していた
- ・ 傷病者に話を丁寧に聞きながら FA 対応していた
- ・ 笛を鳴らしてシーバーがなくても緊急事態が起こったことを周りに知らせていた
- ・ 胸骨圧迫を変わる時などの声かけなどで連携がしっかりと取れていた
- ・ 声が出ていて連携が取れていた
- ・ 傷病者に声をかけ続けていた
- ・ サークルをかいたときに救急隊のための通路まで確保していた
- ・ 救急隊が通るための通路を確保していた
- ・ FA における湯たんぽの活用、吹き込みで空気が入っていた
- ・ FA の声かけが丁寧で安心できるものだった
- ・ 継続監視を通報者に頼むのが斬新
- ・ FA でクラゲの処置をしている最中に前腕の受傷部位を傷病者自身に抑えさせていた。
- ・ 傷病者Bの周りへの制圧にブルーシートを持たせて協力させるのは良いと思った。
- ・ シーバーが使いつらい状況の中で、笛を利用してメンバーに有事を知らせた。
- ・ 感染防護のガウン等の着用が早かった。ガヤの制圧を行っていた。
- ・ 胸骨圧迫の中断時間が長かった。人工呼吸が実際に行われていなかった。
- ・ 胸骨圧迫の中断時間がほとんどなかったのは良かった。
- ・ 胸骨圧迫の中断時間が短く、良かった。
- ・ はじめからガウンを着るのはやめましょう。
- ・ 声が出ていて、しっかりと連携できていた。
- ・ 傷病者への声かけ。関係者の確保が出来ていた。
- ・ 観衆のコントロール。安全な場所への移動が出来ていた。救急隊の協力指示が出来ていた。
- ・ 傷病者の観察をしながら、関係者に対し情報収集ができていた。
- ・ 事故発生時、全体を把握していた。
- ・ 自分からいち早く現場を把握していた。
- ・ 関係者の確保がスムーズだった。
- ・ 監視員の配置、発生した事象に対して人数配分が上手くできていた。
- ・ 監視員、衆人に対しての指示出しや接遇が的確で丁寧であった。
- ・ 常に溺者、関係者、海を見える位置で現場を把握し、コントロールしていた。
- ・ 緊急時のため遊泳者の浜揚げを行い、その後 CPR に加わらせた(人数をかけた)のは良い。
- ・ 監視員が今現在何をしているのか、次に何をすべきか無線等を活用し把握出来ていた。
- ・ 関係者に救急車の誘導等の役割を与えて、有効に活用出来ており良かった。
- ・ 異物除去のログロールの際、正中をキープしようとする意識が感じられ良かった。
- ・ 対応する隊員がゴーグルマスクガウンまで含めた感染対策を実施しており良かった。また関係者を引き離して話を聞いていたのでスムーズな対応が出来ていたと思料する。
- ・ 同上の感染対策、関係者対応が出来ていて良かった。
- ・ 線を書くなどして野次馬、友人などを立ち入らせない、チューブや、シグナルフラッグなどで救急隊を誘導する
- ・ 細かい周りへの配慮を考える

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2025年1月20日

- ・ シグナルフラッグ、チューブなどで救急隊の誘導していた
- ・ 監視長がしっかりと統率をとっていた
- ・ 監視長は現場で指示していた
- ・ 傷病者Bに対応したメンバーはよく連携が取れていた
- ・ FAの傷病者に対する声掛けが丁寧だった。
- ・ チーム全体で状況の共有ができていた
- ・ CPRを連携して行えていた
- ・ 監視長が情報をまとめ、監視員に共有できていた
- ・ 救急車要請が早い。
- ・ 公的救助機関との連携がスムーズであった。
- ・ 声が出ているからみんなに状況が知れ渡る。
- ・ 指示が的確で一人一人が自分の役割を丁寧に行っていた。
- ・ 胸圧の連携とビークロしていたのはよかった。
- ・ 関係者を1つの場所に集めての情報の聞き取りが良かった。
- ・ 傷病者に対する声掛けが良かった。
- ・ 監視長が指示出しを適宜していた。笛を用いた現場作成を行っていた。
- ・ 監視長の指示が行き渡っていた。指揮系統がしっかりしていて、スムーズな対応だったと思う。
- ・ cpr現場を地面が固い位置まで移動させた点はよかった。効果が高かったと思う。また、人員の少なさを感じさせない効率の良さを感じた、特に監視長が指揮を取っていた
- ・ 継続監視が1番ちゃんに行っていた。二次被害の防止に努められていた。
- ・ 連携の取れた動きをしていた。また、fa傷病者へアプローチが早かった。
- ・ 覇気がすごい良かった。下津同様、指揮系統がはっきりしていた。
- ・ 監視長が指示できて、傷病者に毛布などをかけて配慮している
- ・ 野次馬対処の工夫ができていた、声が大きくてよい、野次馬に役職を与えていた、救急隊への動線確保ができていた、
- ・ 監視長がAED使う時などに声がけできていてよかった、関係者への対応がスマートだった、関係者に役割を与えていた、
- ・ 野次馬に手伝ってもらおうよう呼びかけていた
- ・ 野次馬を現場から遠避けていた、本部への情報共有ができていた、傷病者に配慮して毛布などを使っていた
- ・ 全体情報共有ができていてよい、CPRM現場の石をしっかりとのぞけていた、ライフセーバー同士の共有ができていた
- ・ 救急隊の誘導は的確だった
- ・ 練習を繰り返して努力してきた跡が伺える。継続して練習をしてより良い方法を見つけ出してほしい。
- ・ 監視長が、日時を通そうとして、それを受けて、監視員が動こうとしているところが見受けられた
- ・ 練習してきたであろうことが概ね発揮できていた。全体がわかっているところを監視長が先に動くと言う事は、今回の症例の場合にはありだと思います。状況に合わせて監視長が指示に回るべきなのか直接動くべきものなのを考えると良いですね。
- ・ .基本的な流れに関しては、理解をしていると思われる繰り返し練習をしてください
- ・ 緊迫感のある声が出ていてよかった
- ・ 商業者に対して大きな声で声掛けをしていて、何とか助けるぞと言う気持ちが十分に伝わってきました。

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2025年1月20日

検討事項(対応に課題があり、改善検討が必要な手技)

審査長

- ・ 現場の状況を把握する前に、2人目が現場に向かっていった。
- ・ AEDの現場到着までに時間を要していた。
- ・ 監視長からの指示が少なかった。
- ・ 継続監視ができていなかった。
- ・ 生体の頭部の扱いが雑であった。
- ・ レサシテーションマスクのマスクフィットが甘かった。
- ・ 感染対策として、マスク、ゴーグル無し。
- ・ 傷病者記録票使用していない。
- ・ 胸骨圧迫開始までに時間を要した。
- ・ 監視長の役割が不明確。
- ・ 搬送に加勢すべき。
- ・ バックボードのストラップを整えておくべき。
- ・ 救急隊到着前に胸骨圧迫を中断して傷病者をBBに乗せるのは適切か。胸骨圧迫を継続すべきであろう。
- ・ 本部と現場のやりとりが少ない。
- ・ 傷病者の体勢を変える必要はない。
- ・ BBへのz移動で頭部保護無し。
- ・ 監視長以外フルPPEは現実的か。
- ・ 流動性の高い吐物なので流水は必要無し。
- ・ 吐物への早期対応が求められる。
- ・ 救急隊への申し送りなし。
- ・ 資機材現場放置。
- ・ バイタルチェックから胸骨圧迫までの時間が長い。
- ・ 口内清掃の際に指が奥まで入れすぎでは？
- ・ 側臥位の傷病者の口内清掃した後は直ちに胸骨圧迫開始すべき。
- ・ 傷病者搬送時に身に着けていたチューブは外すべき。
- ・ 傷病者の搬送時に頭部の扱いに留意すべき。
- ・ 現着は早かったが胸骨圧迫までに時間を要した。

※覚知からCPR開始までの時間に各チームで2~4分程度の差があった。

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2025年1月20日

監視長・監視員

- ・ 全体的に声が小さく、迅速な対応に欠ける
- ・ ややリーダーシップに欠ける印象
- ・ 緊迫感が感じられなかった。やや冷静過ぎる印象
- ・ やや全体的に騒がしい
- ・ 吹込みがきちんと入っていない。パッド(左脇)に衣類巻き込みあり。ライフセーバー同士のやりとりの言葉のまま、関係者に話していたのが気になりました。
- ・ パッドは貼り直しのないようにする。砂の上での AED の取り扱いに気を遣うと良い。
- ・ 溺水は可能な限り早く吹込みをした方が良い。パットを貼る前に水は拭き取ったか？
- ・ 監視長と現場のシーバーがスムーズにいかない部分が見られた。
- ・ 感染対策が間に合わず CPR が始まってしまった。
- ・ パットを貼る前に水は拭き取ったか？
- ・ 搬送後のテントが飛びないか心配
- ・ 状況がわかっていない状況で救急要請がなされていた。傷病者とのコミュニケーションがあまりなされていなかった。傷口に末端処理重なっていた。救急隊到着後も監視所にいた監視員が状況を把握できておらず連携に時間がかかっていた。クラゲの傷口を見ずに処置を始める様子があり、クラゲとの断定している様子もあった。
- ・ お湯につけると、本人に温度確認をしていなかった。傷口を流した後そのまま拭かずにガーゼを当てていた。
- ・ 傷口を流した後そのまま拭かずにガーゼを当てていた。温度確認をいきなり足で行っていた。ポケマを吹き込みごとに外した結果、再装着に時間がかかっていた。;生体に移行後、AED の解析に気付いていなかった。
- ・ 声掛け不十分で離れる様子があった。傷病者とのコミュニケーションがあまりなされていなかった。AED のコードが巻き込まれていた。FA 対応のお湯の温度がぬるかった。
- ・ 胸骨圧迫のリズムが早い。足が重なってしまったまま処置をしていた。
- ・ 心電図を解析する際に周りへの周知がほとんどなかった。関係者を統制した後の声掛けがあまりなかった。
- ・ 現場からの通報と違う内容を通報していた。FA 対応の人を放置してしまった。症状聞いていないのに温める行為。胸骨圧迫が早い。三角巾が少し緩い。
- ・ 吐いたものを拭うタオルを使用後に素手で扱っていた。嘔吐から横向きにして処理をするまでの時間が長い。
- ・ 防護着を付けずに圧迫していた。AED を貼る人もラテックス以外の感染対策なし。貼り終わってから着用。
- ・ ファーストアプローチの人が感染防護を一切せずに圧迫。最初に嘔吐が見られたが、処理せずに圧迫入る。のちに応援が来てから吐物処理。セカンドの圧点がズレている。戻しも甘い。
- ・ 野次馬を排除し切れていなくて、現場が手狭になっていた。搬送と一緒に持っていく AED が現場に残されていた。
- ・ 吐物処理した後にグローブを交換したのは良かったが、裏返しにして丸めたグローブを自らの膝で押さえていた。そのまま放置。
- ・ 救急隊員が来た後は指示待ちの場面が多かった。声が小さく、指示に対する反応が分からず、現場での指揮があまり上がらなかった。
- ・ 感染防止対策に時間がかかり、ファーストアプローチが遅れた。
- ・ FA の際、傷病者への状態の説明と処置の声掛けが少なく不安を感じる。救急隊を要請した案件や対応場所については、ライフセーバー全員が認知し、早急な引き継ぎができるよう努めるべきだと感じた。
- ・ どのライフセーバーがどこで、何をしているのか全員が認知しているであろう連携が素晴らしい。圧迫の中断を最小にする意識も強く見られた。
- ・ 使用した感染対策器具の後処理が甘い。
- ・ 現場と監視長のコミュニケーションがよく取れている一方で、監視長から現場へのシーバーが

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2025年1月20日

<p>過多ではないかと感じた。現場の人数が多く、継続監視が手薄になっている。FA の圧迫布の面積が小さく、血が流れ出てしまうのではないか。AED を貼る位置が甘い。</p> <ul style="list-style-type: none">・ CPR の吹き込み時に息が漏れている。圧迫の解除が甘く、圧迫が強い時がある。圧点がずれている。・ 救急隊引き継ぎ時の動きがオドオドしている。圧迫中断機会が多い。・ クラゲのFA1 人に対し、4 人が感染対策をしていた。その際継続監視の目が離れていた。・ 全体的に声が無いため、それぞれが何をやっているか理解できていない様子であった。脇側の AED パッドが服に触れていたため、適切なショックができていない可能性あり。現場リーダーが確保していた知人を他のライフセーバーに引き継ぐ際に誰かわからない状況になっていた。撮影している野次馬等への継続的な声掛けがあるとより現場が回りやすくなった・ ファーストアプローチで嘔吐処理は一人でやり、AED を先に貼り始める順番が良いかと。AED に不意ではあるが砂をかけていたり、パッドを貼りなおしていたので、もっと丁寧にできると良い。・ 1st の感染対策が触るグローブだけでもすべき、その後の知人対応もそのままだったため。嘔吐処理は CPR をするまでにしっかりやっておくべき。2nd たちが非常に遅い。パッド装着前に水滴等のチェックが不十分。・ AED を装着するのが非常に遅い、優先順位を明確に。序盤に吹き込みの際に圧迫する手が乗ったままのため、吹き込んでいるかの確認ができていない上、胸を圧迫しながら吹き込みをする危険性があった。粘着力の問題もあったが AED パッドの位置が少しズレていたため外れやすい位置にあった。救急隊が到着後の AED 音声を聞けておらず、ショックが不要にも関わらず、ボタンを押す動作が見られた。・ 嘔吐対応はファーストが一人で対応するとより速く、効率的。2nd のグローブがしっかりと装着できていない状態で傷病者に触れていた。知人の確保が曖昧。AED に不意に砂をかけてしまっていた。パッドを貼る前の体の確認が不十分。数回吹き込みが不十分な時があった。メロノームを使っていたが、色々な声や音があったため、圧迫リズムが速まっていた。頭部保持が不適切。・ 1st アプローチで傷病者の確認をする際に野次馬が身体に触れていたため、適切に観察できているか不明。2nd の一人が傷病者を跨ぐ行為が見られた。バックボードを使用していないため、消防隊がベルトを巻くまで待機する時間が見られた。救急隊の誘導係がいないため、到着するまでに時間がかかった。・ FA の段階で監視長以外が PPE をつける意味が不明、その後に海での救助があった場合のリスクにつながる。現場に向かう段階でレスキューチューブを持っていない、2 次事故へのリスクヘッジがない。胸骨圧迫が 120 / 分オーバー。救急隊誘導がいない。風が強い中テントを使うリスク。・ 全体的に声が無いため、それぞれが何をやっているか理解できていない様子であった。脇側の AED パッドが服に触れていたため、適切なショックができていない可能性あり。現場リーダーが確保していた知人を他のライフセーバーに引き継ぐ際に誰かわからない状況になっていた。撮影している野次馬等への継続的な声掛けがあるとより現場が回りやすくなった・ ファーストアプローチで嘔吐処理は一人でやり、AED を先に貼り始める順番が良いかと。AED に不意ではあるが砂をかけていたり、パッドを貼りなおしていたので、もっと丁寧にできると良い。・ 1st の感染対策が触るグローブだけでもすべき、その後の知人対応もそのままだったため。嘔吐処理は CPR をするまでにしっかりやっておくべき。2nd たちが非常に遅い。パッド装着前に水滴等のチェックが不十分。・ AED を装着するのが非常に遅い、優先順位を明確に。序盤に吹き込みの際に圧迫する手が乗ったままのため、吹き込んでいるかの確認ができていない上、胸を圧迫しながら吹き込みをする危険性があった。粘着力の問題もあったが AED パッドの位置が少しズレていたため外れやすい位置にあった。救急隊が到着後の AED 音声を聞けておらず、ショックが不要にも関わらず、ボタンを押す動作が見られた。・ 嘔吐対応はファーストが一人で対応するとより速く、効率的。2nd のグローブがしっかりと装着で
--

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2025年1月20日

	<p>きていない状態で傷病者に触れていた。知人の確保が曖昧。AED に不意に砂をかけてしまっていた。パッドを貼る前の体の確認が不十分。数回吹き込みが不十分な時があった。メロノームを使っていたが、色々な声や音があったため、圧迫リズムが速まっていた。頭部保持が不適切。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 1st アプローチで傷病者の確認をする際に野次馬が身体に触れていたため、適切に観察できているか不明。2nd の一人が傷病者を跨ぐ行為が見られた。バックボードを使用していないため、消防隊がベルトを巻くまで待機する時間が見られた。救急隊の誘導係がないため、到着するまでに時間がかかった。・ FA の段階で監視長以外が PPE をつける意味が不明、その後に海での救助があった場合のリスクにつながる。現場に向かう段階でレスキューチューブを持っていない、2 次事故へのリスクヘッジがない。胸骨圧迫が 120/分オーバー。救急隊誘導がない。風が強い中テントを使うリスク。・ 通常監視が居なくなった 吹き込み入ってない AED パッド巻き込み 声が小さい・ 圧点が、少し腹部。感染防止を優先するか、嘔吐対応を優先するか・ AED 電源 パッド位置・ ガウンとグローブ、重要性を考えると素手での逆流対応はどうなのか？ AED 本体へ砂がかなりかかってしまっていたのが気になった・ 声が出ているのはよいと思うが、大切な情報と復唱している内容が混在してしまっている・ “清潔操作をすること・ 異物あるさいの気道確保をすること・ AED は何回したか引き継ぐこと・ CPR は中断少なく”・ “そうけい脈拍の取り方・ CPR の評価よい・ CPR のテンポ確認”・ “脈拍のとり方・ 応援が遅い・ 圧迫から人工呼吸が遅い”・ “AED コネクタ忘れ・ 回数の引き継ぎ・ 聞いてないこと、分からないことを無しと言わない〔病歴〕・ 吹きこみの評価をすること”・ “AED 遅い・ 気道確保の手法・ 清潔操作・ 脈拍取ってないなら、脈無しは言わない”・ “CPR 中断時間は短く・ 気道確保の手法”・ AED まで遅い。中断時間は少なく。救急隊きてからの主導は救急隊へ・ 監視長は本部で全体を把握できるようにしたほうがいいのでは？・ クラゲ対応の際に傷病者からも海からも見線を外していた。・ 現場からの無線を聞き漏らしているところがもったいない・ 嘔吐だけで 119 は早すぎでは？現場に対しての監視長からのシーバーが多くて大変そうだった。・ 現場むかったあとに監視長からのシーバーがしばらくなかった・ 溺水発生直後の継続監視が途切れてしまっていた・ 強風の日に熱中症予防のテントは必要か？CPA あと継続監視なし・ AED の扱い、監視長の声の抑揚
--	---

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2025年1月20日

- ・ 溺水が119で伝えられていない、知人聞き取りの量が少ない、FA お湯の温度傷病者に伝えられていない、セカンドコール通っているか不明
- ・ 救急隊誘導の見通し△、
- ・ 継続監視がなかった
- ・ 継続監視△
- ・ テントが日除けになっていなかった
- ・ 監視長も活動に加わっていたため全体の把握ができていなかったように見えた／時間の管理が必要／A E Dのパッドを貼る前は水分を拭きとって／バックボードへはログロールで乗せるほうが良い／ボードに乗せると手がブラブラするのでベルトの余りの部分で縛るとよい
- ・ 現場の状況の把握が不足しているように感じた
- ・ レシーバーでの呼びかけが多かった
- ・ 指示の声はもう少し大きいほうが良い
- ・ 監視長が現場に来るのであれば全体の監視に配慮が必要だと感じた
- ・ ストレッチャーへ乗せる時に頭をもっていて、首に負荷がかかっていたようにおもう
- ・ 胸骨圧迫、やや強めに見えた。吹き込み失敗多め
- ・ パッド表示と貼り付け位置入れ替っていた。
- ・ 情報収集に集中しすぎて他監視員の動きを見ていない。工夫が必要
- ・ パッドが鎖骨にかかっている。
- ・ 監視長に対して細かく情報を入れた方が良い
- ・ 監視長がもう少し的確な指示を出せばもっと良い連携が取れたと思われる
- ・ 周囲に救急隊を呼んだことをはっきりと示すとなお良い。
- ・ CPR実施時に空気が肺に上手く入っていないように感じた。周囲に救急隊を呼んだことをはっきりと示すとなお良い。
- ・ CPRの心臓マッサージが少し強いように感じた。
- ・ 指揮監督を行う監視長は、なるべくフリーで全体を見渡せるようにするとなお良い。
- ・ 監視長の指示が少し曖昧であった。また、周囲への対応についても配慮が必要で、もう少しはっきりと対応する必要がある。
- ・ 事故者の関係者に救急隊への対応を任せていたため、聴き取りが不十分のように見受けられた。
- ・ シーバ連携不十分
- ・ 優先順位、まわりが見えてない コミュニケーション不足
- ・ 超パワハラ 指導
- ・ プレイングマネージャー
- ・ タスクシェア
- ・ 立ち振る舞い、態度が気になった。
- ・ コミュニケーション不足
- ・ 心マ遅い、中断時間が長い
- ・ 優先順位の把握 場所は
- ・ 人工呼吸長い
- ・ 胸骨圧迫のテンポが遅い。人工呼吸が不十分。溺水の連絡を受けてからのファーストレスキューアの到着が遅く緊急性が感じられない。ファーストレスキューアが溺者観察をせずに無線だけに固守していた。周りを不安にさせてしまう叫びのような溺者への声がけ。担架への移乗時のもたつき。AEDのパッドを2枚同時にはがさない。
- ・ 胸骨圧迫のテンポが遅い。人工呼吸が不十分。溺水の連絡を受けてからの初動が遅い。現場の混乱をコントロール出来るだけの声量と言葉使いが足りない。AEDのパッドを2枚同時にはがさない。
- ・ 溺者発生の連絡を受けてからのファーストレスキューアの到着が遅い。不十分な技術でのBVMの使用。PPEの感染対策の優先順位。

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2025年1月20日

- ・ 溺者発生の連絡を受けてからのファーストレスキューの現着が遅い。右半身のみがバックボードに取りかかった半端な状態での胸骨圧迫は危険。不十分な技術でのBVMの使用。
- ・ 無線が通っていない、指示無し
- ・ 継続監視が0、クローズをして欲しい
- ・ 風が強いので無線の取り扱いに注意してください
- ・ 感染防止の風対策をして下さい
- ・ 風が強く声が通りにくいので、声が聞こえにくいので注意して下さい
- ・ 救急車要請、胸骨圧迫開始の判断は早くてよかった。
- ・ 胸骨圧迫開始まで時間がかかりすぎている
- ・ 胸骨圧迫開始が遅い。
- ・ 観察、処置の着手がスムーズで良かった。
- ・ 口腔内に水を入れるのは良くない
- ・ 胸骨圧迫中に口腔内の清掃は行えないので上手くコミュニケーションをとりながら行う
- ・ 感染防止対策としてゴーグルの使用が見られなかった
- ・ シーバー連携が厳しそうだった
- ・ 継続監視を行なっているチーフが本部に連れてこられた知人対応をしたことで穴ができていた
- ・ 継続監視の意識が低いように見えた。
- ・ CPRを行うLSの1人が感染防護具を何もつけずに行っていた
- ・ CPRに3名のLSを割いている場面があったが、貴重な人員を割くほどの状況では無かったように感じた。
- ・ 「流血してます」と大きな声で言うのは傷病者に寄り添えられていないと感じた。継続監視が甘いように感じた。
- ・ 傷病者Bの周りに描いた円にガヤが侵入していた。
- ・ 本部と傷病者Bの周りで情報共有がスムーズにできていなかった。
- ・ 傷病者Bを最初に接触したLSが跨いでいた。
- ・ 関係者や野次馬対応の時の言い方が強かった
- ・ 関係者対応が本部で行われていた
- ・ 話を聞いている時に胸骨圧迫が止まっていた
- ・ 現場に向かう時にシーバーを持っていなかった
- ・ 胸骨圧迫が強い
- ・ 最初からガウンを着用していた
- ・ 全員が声出しすぎていて必要な指示が通っていないことがあった
- ・ 胸骨圧迫のリズムが速いと感じた
- ・ CPRを始めた時に野次馬が剥がせていなかった
- ・ 人工呼吸のときにマスクから息が漏れていて十分に空気が遅れていなかったと思う
- ・ 情報徴収者と現場が離れており情報共有が図れていなかった。
- ・ 「身体を海と平行、海側に倒して吐物を除去」にこだわる必要があるのか。AEDの時間を正確に記録できていない
- ・ 胸骨圧迫をもっと垂直に、手掌基部が胸骨に載っていない。AEDの解析結果も把握すること。「身体を海と平行、海側に倒して吐物を除去」にこだわる必要があるのか
- ・ 現場でのコミュニケーションが少ない。AEDの情報が一切取れていない
- ・ 声が小さい)
- ・ 心臓マッサージの評価が足りていなかった。ショック時の声かけが足りない。AEDの時間を取れていない
- ・ 救急隊が直で現場に行けるように誘導すべきだった
- ・ 除細動の必要なしメッセージ後でも直ちに心臓マッサージを再開させましょう
- ・ 除細動時、「離れて下さい」だけでは言葉足らず
- ・ 傷病者記録用紙の情報がもっとあると良かった

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2025年1月20日

- ・ ガウン着てた人が周囲の人の対応をしていて、着ていない方が CPR に入っていた。AED の時間を言っていたが聴取の方に聞こえておらず救急隊が来てから確認していた。
- ・ CPR の方に聴取の方がいなかったため、途中 CPR 現場とでの監視員間での共有ができていなかった。
- ・ 胸骨圧迫位置がずれている。送気が抜けている。助かります。と断言していた。胸骨圧迫を中断してしまっていた。
- ・ CPR 現場の他のライフセーバーの応援が遅く 1 人で行っている時間が長かった。FA の方の三角巾での止血の際に受傷部位の近くで止めていたためもう少しずらす。
- ・ 胸骨圧迫やるまでに時間がかかっていた。胸骨圧迫部位がずれている。AED 終わってから、胸圧再開するまでの間があった。
- ・ AED の際に砂水を拭けていなかった。
- ・ ガウン着るのに時間がかかっていた。ログロールするときにタイミングがずれていた。;
- ・ 感染防御が手袋のみだった。
- ・ 傷病者に触れていた。
- ・ 呼びかけと反応の確認の間がなかった。もし、その時に開眼したら JCS がわかりづらい。胸骨圧迫中断時間が長い。マスクフィットできていなかったら、胸骨圧迫を続けた方が良い。
- ・ バックボードに乗せるタイミング
- ・ AED の設置場所
- ・ AED の電気ショックが行われる時、傷病者に触れられる位置に人がいた
- ・ 知人の確保をしてから情報を聞き出すまでに時間がかかっていた
- ・ 現場で知人を確保したまま、一緒にいるだけになっていた
- ・ 現場でライフセーバー間の声かけが見られなかった
- ・ 傷病者の首の扱いが雑だった
- ・ FA の傷病者を海側に向けて座らせていた
- ・ ガヤの制圧が遅く、ライフセーバー間での連携がとりにくそうだった
- ・ 最初に接触した時、傷病者の状態がちゃんと確認できていなかった
- ・ 逆流処理が遅いと感じた。バックボードに初めからストラップ付いていて、体格によっては二度手間になると思った。
- ・ 知人を本部で確保するのはいいが、救急隊への引き継ぎの際にしっかり引き継ぐ必要がある
- ・ 逆流処理が遅いと感じた。吹き込みのとき傷病者の胸に手が添えられていてしっかり見えないと思った
- ・ 全体的に扱いが雑に見えた。常にポケマが顔にあるため、表情の変化などが見えない
- ・ ポケマずっと顔にあるため、表情分からない
- ・ すぐに毛布をかけていて、体動などが分からないと思った。現場制圧が来るまで制圧め
- ・ 傷病者の関係者が複数人いたが、関係者のうち一人だけを確保して他の関係者はほったらかしになっていた。確保した 1 人が親しい間柄ではなかった際に、救急隊への受け渡しの際、上手く伝達できない可能性があるように感じた
- ・ 関係者と傷病者の距離が近く、救護の妨げになっていたため、もう少し強めの注意が必要だったように感じる
- ・ 傷病者を移動させる際、資材が邪魔になっていた。動線確保をした方が良い
- ・ 観衆に傷病者との距離を取らせることに苦難していたように感じた。もう少し強気で距離を取らせるべき。
- ・ 特に無し。
- ・ 最初から感染症対策の服装をしていた。傷病者を運ぶ際に裸足のライフセーバー
- ・ 本部に人が居なくなっていた。
- ・ 救急隊から関係者以外離すよう指示された際に、上手く離せず、救急隊から再び離すよう指示されていた。搬送時資機材が残ったままになっていた。
- ・ 特に無し。

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2025年1月20日

- ・ 作業に対して割いている人員がもったいないように感じた。もう少しまんべんなく役割を持たせた方がよい。
- ・ CPR2 人しかいない中で、報告を求めている。通常監視の指示が欲しい。
- ・ 一問一答の受け答えがよい。救急隊との受け答えを優先させて早期受け入れできるとよい。FA お湯かなりぬるい。
- ・ 監視長からの指示が継続監視しかない。お湯の事前の袋での用意が不適切。(すぐ冷める)ガウンは優先度低い。第二第三の対応が遅い。
- ・ お湯の事前の袋での用意が不適切。(すぐ冷める)記録をとるとよい。(報告はあるが) 報告内容が救急隊に伝わっていない。(意識レベル 300)
- ・ 本部での記録取りがあるとよい。通常監視にも配慮ほしい。ガウンを着てチューブを持つことは適切なのか。
- ・ ガウン、マスク、グローブの外し方が感染の危険性あり。事前に傷病者の記載が用意されているのは、適切なのか。
- ・ 無線での行き違いが多い。現場からの笛がないと動かなかった。
- ・ 救急車要請時の一問一答で伝えるとよい。継続監視の指示があるとよい。ガウンは優先度低い。
- ・ 事前に傷病者の記載が用意されているのは、適切なのか。無線での行き違いが多い。
- ・ 人が倒れてると聞いてから誰も海を見ていない。FA 傷病者とのコミュニケーションが少ない。
- ・ テントに人来た時全員その人見てる。対応は1人でも十分な気がする。テントにCP1人では更に他のトラブルの際対応できない。
- ・ 関係者の大丈夫なの？という問いに大丈夫と返していたが、予後不良だった場合責任が取れないので好ましく思わなかった。FA 傷病者の止血処置にディスポをつけさせなくて大丈夫か。
- ・ 仕事を割り振っているが結果個人の力勝負になってしまっている印象。
- ・ だと思わずには確実な情報を救急隊に伝えるべき。記録用紙にショック回数や時間をメモしなくて良いのか。
- ・ 指示で〜とかというあやふやな指示の飛ばし方をしていた。
- ・ 海見ます等色々声を出して共有していたが結局人が来た時に誰も見ていない状況があり、声だけになっていた。
- ・ CP の口調、態度がテントにいる傷病者やシーバー越しに聞こえてる人がいるという配慮に欠ける。
- ・ タワーに倒れてるのを教えに来てくれた人を放置しているように感じる。
- ・ 人が倒れているとわかってからの行動は素早かったが視野が狭まり全員下や横を見ている時間があった。
- ・ 救急隊に人定を早い段階で送れば良かった。シーバーワークで聞き直す事がもったいなかった。
- ・ チーフからのシーバーが全く通っていなかった。
- ・ 情報を整理出来ていない中で通報を行い、結果的にやり取りが長引いてしまった。チーフからの情報要求も不十分であった。
- ・ 現場長が情報を飛ばせていなかった。救急隊へのメモが作れば搬送が楽になった。
- ・ 現場からシーバーが飛ぶことは少ない。情報要求を頻繁に行わないと現場の把握が出来ない。
- ・ 通報に際し情報をまとめていない。現場にライフセーバーが全て行くことでチーフからの指示、継続監視共に疎かになった。最初からガウン等を着るのは現実的ではない。
- ・ 本部に人がいなかったため継続監視がなかった。救急隊の誘導が欲しい。メンバーにできることをチーフがやらない。
- ・ シーバーワークを見直すべき。聞き取りやすい文言と話し方が必要。通報に必要な情報を事前に共有すべき。
- ・ シーバーワークについて文言を見直すべき。せっかく誘導をお願いしたのに利用出来なかつ

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2025年1月20日

	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none">・ シーパーを聞き直す回数が多かった。どの情報が欲しいのか明確に聞く。・ CPR 現場からの情報が少なかった・ 監視員に対して必要な情報を得ていなかった・ 感染対策が足りていなかった・ 監視長の覇気がなかった・ 監視員の本部間の移動が多かった・ 感染対策の面でシミュレーションでしかない・ もともと想定が書かれたメモを持っていた・ 焦っていて無線の連携ができていなかった・ 現場の状況が少なかった・ 現場ばかり見ていた・ aed の取り扱いが不十分であった観察が不十分であった特に AED のパットの貼り方貼り付け方。春位置に関しては検討が必要である。公的機関にとの連携が不十分に何を伝えるべきか考えて行動してほしい。傷病者に対する声のかけ方声をかける方法に関してもう一度考えてください。・ AED の取り扱いについて十分に勉強したほうがいい。また AED をどの段階で使うかを含め検討し直してください。その他救急体制に関してもう一度勉強してください。・ 救急隊の連携に関してもう少し考えて欲しい。傷病者に対する声掛けなど緊迫感を持って行ってほしい。特に周囲の人たちに対するアプローチに関しては検討をしてください。AED の使用までの時間に関してもう少し短縮できると思います。メロノームを持ってきたのならば使ったほうがいいと思いました。・ AED の準備が遅く使用ができていなかった。AED の取り扱いパッドの使用方法等根本的な使用方法に関して理解ができていない可能性がある。十分に練習をしてください。傷病者を引き上げる場所について引き上げる理由が欲しい。・ 傷病者に対する初動が遅すぎる。AED を使うまでの時間が長いので、素早く AED が使えるように検討してください。レスキューチューブは邪魔かもしれません。ガウンに関して素早く装着できないならばあまり気にしなくても良いと思います。・ AED の準備が済み、また AED の取り扱いに関して十分に練習をしてください。特に夫の扱い方、パットの貼り方生法中にどのようにパットを貼るかについては考えてください。心印鑑の点検情報の伝達が不十分で救急隊に対する情報の提供がうまく行えていなかった人工呼吸に関しては行うように検討をしてみてください・ 119 の通報が遅い、野次馬対処、体から離れる時、全身の観察をしっかりする、情報が 1 個にまとまっておらず関係者に何度も聞いている場面が多かった・ 123はしっかり合わせた方がいい、寝かせるときもしっかり引っ張って下ろすように、胸骨圧迫が強い、CPR 現場でエンボスしている人としてない人の違いとは・ ショックする際に全身を確認するべき、野次馬対処はもっとしっかりするべき、・ 本部での関係者対応、1.2.3 を合わせるべき、消防の連絡に対応せず、CPR 現場で女性の方が手あまりのように見えた、野次馬が放置されている時間があつた・ 放置時間長い(CPR まで長い)、AED 貼るまで・ 関係者への対応、CPR の場所・ 最終的にも荷物を確保することができなかった。曖昧にしている点ではない。全体的に救急に必要な覇気がなかった。役割分担がなあなあになっていた気がする。情報をとる人、野次馬対処その他諸々に関して、統一させた方がスムーズに進んだように思える。・ 細かい点において荒さが見えた。圧迫解除、bb 固定など丁寧に行うべき。aed の電源が入っていなかった。ショックを行えていない、・ 全体的にアプローチが遅かった印象。とくに fa では近づいてくる段階で向かい入れればなお良かった。
--	--

第9回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2025年1月20日

- ・ 適切な胸骨圧迫ができていない。甘かった。
- ・ 感染対策を講じてはいたが、完全にやっている人と全くしていない人で分かれていた。結果、傷病者に触れることがあった。cpr までの時間が長かった。チューブを巻きながら行っていたため、邪魔になる場面が散見された。
- ・ 荷物を取りに行かせた判断は冷静に行うべき。また、傷病者へのアプローチが遅かった。下津も同様、人工呼吸の判断をするべき
- ・ 逆流ありの時にディスポに土がついていた
- ・ 継続監視の人がいなくなった
- ・ AED を最初開いた時に中身に砂がついていた。
- ・ 救急車を呼ぶタイミングが遅い。
- ・ チューブを引きづっていたから危ない。
- ・ 傷病者 B に対してアプローチが遅かった。
- ・ シーバー取りに戻った FA の対応してる子にシーバー飛ばしたが反応できていなかった
- ・ 傷病者 B の救助にあたっている側からのシーバーに反応してない
- ・ 救急隊の誘導の仕方
- ・ AED の装着や心配蘇生が遅い
- ・ 止血やクラゲの FA 法。防護服の扱い方。人工呼吸していない
- ・ 止血の仕方。人工呼吸していない
- ・ 野次馬、友人の対応に人をさきすぎ、救急隊到着後の CPR の時垂直に押せていなかった、FA の直接圧迫の時心臓より高くあげていなかった、救急隊誘導の時目印になるものを持っていなかった、手持ち無沙汰なひとがいた
- ・ 最初の友人へのアプローチの時当たりが強い、傷病者をバックボードにのせる時ストラップを外す作業で時間ロス、吐物除去で使った手袋を放ったらかし、救急隊到着後の CPR 垂直に押せてない、CPR まだが遅い
- ・ 救急隊への誘導が全くなかった、隊員内での連携の声がすくない、継続監視がテント前のみ
- ・ 監視長の指示がとおってない、指示がない、レサシテーションマスクを地面に落としていた、友人への聞き取りに取り掛かるのがおそい、CPR を 3 人でしているのに救急隊の誘導がない、通報内容が正確でない、傷病者(溺者)への声掛けすくない
- ・ 感染防止のビニール着用で対応がおくれた、溺者の下にチューブのストラップがあつて引きづっていた、このためにやっていた感がある→通報が来る前にいっていた、レサシテーションマスクをつかってない
- ・ 感染防止のビニールで対応おくれた、溺者を運ぶ時落とした、レサシテーションマスクをつかってない
- ・ 関係者の対応について、目の前でなく少し離れた所に移動させ話を聞くと隊員の活動がスムーズに出来ると思料する。
- ・ 関係者に対する接遇として、スペースを確保するためとはいえ押し返すような動作がみられたため、注意が必要と思料する。
- ・ 感染症対策としてマスクを着用している者もいたので良かったものの、全ての隊員ではなかったため着けた方が良くと思料する。
- ・ 関係者の制限及び有効活用が出来ていた一方、飲酒していることが分かっている状況であれば搬送を手伝ってもらうのではなく、荷物持ちの手伝い等をしてもらう方が良くと思料する。
- ・ 特になし
- ・ 大きな声で対応出来ていた一方、周囲に大事が起こったのではと誤解されることもあるため、落ち着いた対応が必要と思料する。
- ・ 全体を通して監視員、衆人に対しての指示、声かけの音量が小さい。そのため、レスポンス悪い。
- ・ 溺者から目を離し距離が遠い時間が多い。監視長としては常にバイタルの変化等を把握してきたい。また、Faに2名人員を割いていた為 CPA を優先して配置を行うべき。

